

**バザー委員会 (第一回)**

< 5月25日 AM10:30~11:30 於会議室 >  
 出席者: 婦人会 鈴木、青柳、内藤、壮年会 上野、  
 委員会 清水、花坂、甲斐

- ① バザー券を発行する  
 1冊5枚綴りで200冊発行 @200×5=1,000円 200冊  
 @1,000円×200=20,000円  
 主担当として花坂さん。
- ② チラシ、ポスターの発行  
 スペイン語、中国語を書き入れたら。  
 スペイン語は小谷氏(知人)、中国語は上野氏(知人)  
 デザイン、発行部数は次回委員会。
- ③ バザー委員会からのお願い
- ④ 模擬店について  
 上記③④に関しては、婦人会、壮年会、例会に語り  
 回答をしますと両会長よりの談。
- ⑤ バザーの目的: 親睦、教会施設の補修、対外支援
- ⑥ 第二回バザー委員会 6/22 9時ミサ後開きます。

**委員会だより**

(5月度委員会は休会しました。)

**壮年会だより**

(5月度壮年会は休会しました。)

- > 倉庫にあった神父様の本を新集会室に移しました。
- > 県立病院(二俣川)に入院されている竹内さんのお見舞いに行きました。回復に向かわれているご様子でした。

**お願い**

6月29日は山崎神父様の霊名(聖ペトロ)の祝日です。この日に神父様に霊的花束をお贈りします。

6月1日よりお御堂に箱を用意致しますので、皆様宜しく御願ひ致します。

**婦人会だより**

< 5月18日(日) 36名出席 >

- 1. お知らせ  
 > 山下様が原宿教会へ転出されましたので、連絡網から外して下さい。
- > 月報について  
 7月号に載せるための原稿をお願いします。出来れば原稿用紙3枚以上としてください。
- > 6月の第一、第二(日)ミサ後、古着の販売を致します。
- > 遠足は雨のため交通が渋滞し、予定を何回か変更することになり、ご迷惑をおかけいたしました。予定していた浜離宮は雨のため寄らず、お台場をバスで回ることに変更しました。  
 モダンな浅草教会へ聖体訪問し、待っていてくださった教会の方々にお茶をいただき、感謝のうちに教会にお別れをしました。
- > お掃除について  
 第2第4日曜日にお聖堂の床のお掃除をするので、前日の土曜日にお掃除をする必要がないのではないかというご意見が出て、皆で考え、お聖堂の床に関しては土曜日にはしないことになりました。ただし、汚れ具合によっては各週のお掃除の方の判断により行なってください。その代わり新集会室(一階)をお掃除することになりました。  
 日曜日に「皆でするお掃除」は、椅子を動かし掃除機をかけ、モップがけまでするように、委員会でお願ひすることになりました。  
 お掃除についてはこれからも検討し、良い方法を見つけていきたいと思ひます。

次回例会6月15日(日) 次回当番地区はD地区です。



**ミサ当番表 (97年6月、7月)**

月/日	主日	朗読、奉納	オルガン	月/日	主日	朗読、奉納	オルガン
6/1	キリストの聖体	宮崎	大宮	7/6	年間第十四主日	小野	岩淵
6/8	年間第十主日	青年会	岩淵	7/13	年間第十五主日	青年会	石川
6/15	年間第十一主日	婦人会D地区	石川	7/20	年間第十六主日	婦人会A地区	森田
6/22	年間第十二主日	岩淵	森田	7/27	年間第十七主日	上野	大宮
6/29	聖ペトロ聖パウロ使徒	婦人会D地区	大宮				

※当番の方は10分前には集合して下さい。

※ご都合の悪い方は典礼委員までお申し出下さい。(萩原: Tel. 802-6258)

**今月の予定**

- 委員会 6月8日
- 神父様霊名の祝日 6月29日
- 神父様黙想会 6月30~7/3日
- サロン 6月8, 22日
- レジオ 6月13, 20, 27日



**第226回**

カトリック中和田教会  
 広報委員会発行  
 泉区中田北1丁目9-1  
 Tel. (045) 803-6141  
 1997年6月8日



**教会の紹介文と称詠**

(一九九七・五・一三)

山崎 正俊



当教会は、一九七四年(昭和四九年)に建築されました。最寄り駅、JR戸塚駅、小田急線長後駅相模鉄道いずみ中央駅より神奈中バス利用、立場バス停から近く、閑静な住宅地のうち。隣接地に、公共施設・立場地区センターや泉区医師会メディカルセンターがあります。私共の教会は「神の母・聖マリア」のご保護を頂いています。前庭のマリア像は何時も美しい花で囲まれています。それが私共の誇りです。近隣の教会と比べ信徒数は少ないですが、大変家庭的な教会です。第二、第四の日曜日の九時ミサ後、新集会室に於いて、壮年会会員の奉仕によるティータイムが設けられます(サロンと呼ばれています)。

のびる地下鉄一号線の工事が進んでいますが、立場駅も完成が近い様子。足の便も良くなり、共同体として地域に密着した開かれた教会としての活躍を、一層心がけます。皆さんで、コーヒーの香を楽しみ、歓談のひとときをおすごしになりながらも、まずは、この中和田教会に御み足をお運び下さい。(私共の信徒数は三百五十名ほどです。)

清水 聖 他

ここまで読んで、安心して、はじめて、まわりを見まわしたら、マットレスの上に、厚いのと薄いとの二枚の敷布団、新しく洗われた敷布団の間に、大きな枕にすがって、その上の二枚の厚手の毛布と、軽くてフカフカの美しい掛け布団をかけて、寝ていた。何と色調の暖かい壁と天井、四角の笠、その下の蛍光灯の二重の輪のやわらかな光。おだやかな真心のうちに抱かれている。

この頃改装された屋根と、二階の内外層のおちつき。やっと私も「ひとごち」がついた。有り難く、もったいないほどの場所にやすらっている。この地上に生きながらも、天国の傍らの住まいに殆ど隣りあわせている。恩人である前任者の一周忌ミサもすみました。

もうここも次のお方にお譲りできる。別の部屋に仮にあずけたものを、もとの所にもどそうとして、たまたま近くにいた人に手伝っていただけだったので、すぐに終わった。あとはきちんと、ととのえるばかりになった。すこし急がねばと思う。これからは、人生の第三期に入るための直接の準備をすることになったわけだ。

司祭への叙階式の頃に、いま四十歳になったところだから、とにかく、一応の切りとして、新期の四十年を置こうと心にきめていたのだったが、その満期が来る。あと半年のこと。そのまよめるときになる。嬉しいではないか。第三の期は与えられる限りとして、生命の与え主へのお礼として、一増の誠意をこめた日々としたい。存分の満足がいくように。私には与えられた時限があるのでしようから、それに従うより他はありません。

私の毎日は、ゆっくりしすぎていた。気が付くのに手間がかかりすぎるくらいがあったようだ。しかも、次々と知りたいことが出てくるので、しのこしたことが多すぎる。それは、私以外には、あまりにも意味があるものではあるまい。それでも、調べておきたい。誰かには、いつかは役立つかもしれない、そうならばよいなと思っている。それが自己満足のことであっても、たいいていのことは、多くは、そのような尊さにつながっている。

# 俳句

小谷徳爾さんのご好意により、所属されている俳句同好会『東桜』の会報九十六年十二月号、九十七年四月号に掲載された小谷さんの俳句と、添付された評(評者は行人先生または伸実先生)をご紹介します。カトリック俳句の境地をお楽しみ下さい。

クリスマスラテン語聖歌深夜ミサ 徳爾 (平成八年十二月四日)

師走の夜ライトアップも気が忙し 徳爾 (平成八年十二月四日)

師走と共にデパートを皮切りに、街々に電球の花が咲く。作者はこれを気忙しく思う。

元旦や聖母マリアを祝うミサ 徳爾 (平成九年一月八日)

元日の初ミサに参じた作者の、信仰者としての平安と歓喜の温容が目に見えるようだ。

初詣嬉々とし子等のその笑顔 徳爾 (平成九年一月八日)

如月の夕富士映えて茜雲 徳爾 (平成九年二月五日)

長崎は殉教の町二月尽 徳爾 (平成九年二月五日)

早春、カトリックの作者は念願の殉教と被爆の街、長崎の石畳を歩いたのである。(行人)

水ぬるむ復活祭を待ちのぞみ 徳爾 (平成九年三月五日)

教会のステンドグラス春の光 徳爾 (平成九年三月五日)

教会のステンドグラスといえは、ヨーロッパ旅行で訪れた数々の教会を思い出します。ゴシック様式の建物に嵌め込まれたステンドグラスの窓は、薄暗い教会の内部で外光に独特の彩りと輝きを示し、キリスト信者でもない私たちにも身のしまる神々しさを覚えさせずにはいませんでした。春の光は一層神のみ心にかないような気がします。

カトリック教会庭もさくら微笑(えみ)徳爾 (平成九年四月二日)

復活祭はさくらと共に来る。信仰の弱い私は「イエスはトマスに言われた。私を見て信じたのか、見ずに信ずる人は辛いである。」(ヨハネ福音書 20:29)の言葉に低頭する。(伸実)

# まだまだ遠い俳句の道

小谷 徳爾

東桜会報第六回の随筆で、佐藤光正さんが、俳句同好会「東桜」が平成六年十月十二日会員十二名で発足したと書いておられます。第二回会報を行人先生が送って下され、これまで俳句には全く無知の私でしたが入会させていただく仕儀となり、No.13の会員となった次第です。以来毎月の例会を唯一の楽しみに十三番目の席を汚して兼題に苦吟を重ねております。東桜句会のおかげで自分ながら物の見方やとらえ方が変わり、視野も広がったように思います。先日私の第三の職場での仲良し仲間会がありました。会のおと鶴見工業学校卒業の友人と席を改めて杯を重ねることがありましたが、この技術屋の友人のいうことには、青春時代は軍需工場で汗と埃にまみれ、そして戦後の混乱を生き抜いて来ておよそ文学などとは無縁の身、それがやっと人生にゆとりと暇ができたと思ったら定年、卒業式を迎えてしまったと。この友人は一流企業で働いておられた方で先輩に書道家がいてその門を叩き、書道に精進したが、その間に俳句もやろうという話が出て早速同僚と素人集団ながら「竹の子会」後改め「せせらぎ会」をつくって十年になるが、省みて俳句の何たるかも知らずただ五七五と並べて来ただけ、俳句は本当に難しいが奥も深い。余生を俳句と書道の勉強に励みたいと情熱をこめて話されました。

行人先生は正岡子規のことを時々話されますが、子規は慶応三年九月十七日伊予松山に生まれ、ホトトギスを結成、写実主義と万葉調を主張して近代俳句の創始者となりました。行人先生が、や、かな、けり、のきれ字は二つ重ねてはいけない、大切なのは季語、季語を生かして季節感が出る、良い句が出来ると言われるのはホトトギスの流れに沿った教えでしょう。

柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺 子規

蓮の花南無三宝と手を合わせ 徳爾

平成七年一月の兼題は「日足伸ぶ」「水仙」八年一月は「初富士」「春着」「万両」、さて九年一月の兼題が楽しみです。



(東桜のメンバーの方々、左端小谷さん)

(『東桜』会報九十六年十二月号より)

# 閑話休題

経緯については、広報「なかわだ」をお読みの方はご存じと思いますが、補修工事準備委員会の各委員が、それぞれの持ち味を活かしたお考えの発言をして下さいました。

- ①葺き替えてなく新しく現在の屋根の上に瓦をし(費用の低減)
- ②二階居住区廻りの雨仕舞いを良くする為表に出ている鉄柱を新規の壁で包んでしまう(雨漏りを防ぐ)
- ③神父様のご希望の書庫建設(将来は青少年向け多目的ホールに使用)
- ④資金繰り返済方法の立案(無理のない最低の献金額)

方針がまとまりましたので、1月26日信徒総会に議案提出ご承認を受けました。

- 1月28日横浜教区教会建設委員会に借入申込書提出
- 2月4日正式裁可
- 2月9日(有)店橋工務店と契約
- 2月24日着工
- 4月30日完了((有)店橋工務店ご苦勞様でした。)

兎に角リフレッシュしました。中和田教会の守護神マリア像の廻りの花園が映えています。神父様をはじめ特別献金をして下さった方々にお礼を申し上げます。何といたっても10年にわたる教区への返済が私達の「ノルマ」となりました、皆様のご理解とご協力を感謝します。

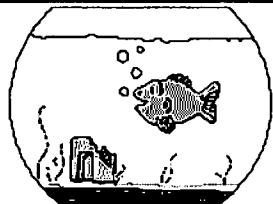
建設献金の集まり状況は120口予定に対して4月現在95口です。もう一息です。まだご協力を頂けていない方は宜しくお願い申し上げます。

私共の教会も近隣の開発により益々地域への存在感が必要になるのではないのでしょうか。開かれた教会としての色々な意味でのリフレッシュが大切と思いますが如何でしょうか。

'97.5.21 清水 聖

# ペット百科 金魚の一言

清水 聖



そもそもご主人夫妻との出会いは、初夏昭和六〇年五月、晴れた日、農協の玄関先での臨時の鯉の品評会場、大きなビニール製のプールの中、鯉に邪魔もの扱いされ、アッチの隅、コッチの隅と、まごまごしていた私たち、金魚の稚魚六匹が、立ち寄ったご主人に引き取られ、洋間に置かれた、縦30糎、横20糎、深25糎、濾過ポンプ付水槽にて新生活が始まった。昭和五九年十一月、一人娘を嫁がせ夫婦二人だけの様子。静かなもの。私たちに對する管理が悪いわけでもないのに、一匹、二匹と成長にあわせて仲間がへってゆきました。私たちの耳を楽しませて呉れた、レコード鑑賞も近頃はトント無くなり私たちも年を重ねとうとう二匹、雄ばかりの同居生活だったのか、ロマンスもなく繁殖もありませんでした。平成四年三月ご主人が清水の舞台から飛び降りたのでしょ、ご主人の住まいより立派な装置付水槽(縦60糎、横30糎、深35糎)を購入して呉れました。広いし悠々泳げるし、底に敷いた砂利の感触も良く最高、しかし悲しい出来事が発生、平成八年三月三日仲間の一匹が死亡、私たち金魚には判るのですが、ご主人には死因は判らぬ様子。私一匹になってしまった。体重20糎、巨大な腹、姿形は小鯛に似ています。金魚では大きい方でしょう。時々ペースを乱されるのは、ご主人の孫たちが訪れた時である。「おじいちゃん僕金魚に餌をやる」と沢山与えられた。その後腹が胃もたれ、食傷気味になり、太い長いウンチをしてご主人のしかめ面を見受けます。もう十二年目を迎えています。

ご主人の日課の散歩が終わると私に餌を呉れます。そして食べ具合、泳ぎ方を観察しています。ご主人は近頃茶の間でのTV、読書、物を書くのが楽しみな様子。ちなみに先日は図書館に足を運び金魚のルーツを調べに行きましたとか。金魚は三〜四世紀ごろに中国に於いて体色の赤いフナ(ヒブナ)が発見され飼育されたのが金魚の始まりといわれている。日本へ渡来したのは室町時代(十六世紀初め)とされているが、白鳳年間(七〜八世紀)という説もある。其の間も突然変異や交雑によって現れた変種が、人為的に選別淘汰され、いろいろな体型、体色、うろこ、ひれ、目を持つようになった。この目やうろこの性質の中には、メンデルの法則にしたがって遺伝するものがある。(参考 学芸百科事典)私はヒブナの系統のようである。(フナに赤い色をつけた感じ)

兎に角今は淋しい、ひとり(一匹)暮らし、年の差を考えず、ロマンスが誕生する様に若い金魚(彼女)をお世話下さい。お願いします。ご主人様。(平成八年四月九日)